

「大学の世界展開力強化事業Ⅱ（「開かれた ASEAN+6」による日本再発見）参加報告書」

京都大学大学院 文学研究科 行動文化学専攻 地理学専修
博士後期課程
朝倉 慎人

①学習成果

私は、平成26年度アジア SEND 派遣助成プログラムで、チュラロンコーン大学（タイ）に派遣された。私は日本の農村部でのフィールドワークを通して、観光（者）のまなざしとそれが注がれる地域社会の関係性を検討してきたが、それとの比較の観点から、タイにおける農村観光、とくに Hill tribe tourism（山地民観光）に強い関心がある。今回の派遣は、近い将来行う予定のタイ農村部でのフィールドワークに先立ち、主に（a）現地調査に必要なタイ語の習得、（b）タイ各地の観光イメージの特徴の検討、といった基礎的な作業を重点的に行った。（a）については、チュラロンコーン大学の外国人向けタイ語講座（期間：2015年1月5日～2月13日）を受講し、集中的な訓練を受けた。（b）については、Tourism Authority of Thailand (TAT) が発行したバンコク首都府と76県のパンフレット（英語版）を収集し、同シリーズの75県・首都府のパンフレットと、別シリーズではあるが、残り2県のパンフレットを入手した。（a）、（b）ともに派遣期間中に完結しなかったため、プログラム完了後の現在も継続的に作業を行っている。しかし、今後10年スパンで想定しているタイ農村観光研究の第一歩としては、十分に意味のある成果を上げることができたと考えている。

②海外での経験

タイへの渡航、1か月以上の国外滞在とともに初めての経験であり、とりわけ滞在中にかかる事務的な手続きで戸惑うことが多く、いくつかミスも犯した。しかしこうした経験が、タイ文化やタイ語学習を進める強いインセンティブとして働いた。また、書籍では十分にわからない観光地の雰囲気を感じ取るため、作業の合間を見つけて精力的に観光スポットを訪問し、観光客の行動を観察した。滞在中には、急性ウイルス感染でバンコク病院（バンコク）に入院する機会があり、メディカルツーリズムの一端にもふれることができた。SENDを通じて知り合ったタイ人学生と海に行き、タイ人と外国人の海水浴の違いを目の当たりにしたのも興味深い経験だった。

③プログラム内容

派遣中は主に、（a）SENDの実施、（b）タイ研究の準備と実施、を中心に行った。（a）については、2月半ばに、「まなざしとホストの実践の間」と題し、これまで私が日本の農村を舞台に行ってきた研究を紹介した。また、チュラロンコーン大学側の受入教員とともに、文学部東洋言語学科日本語講座の学部2年生の研究指導を行った。とりわけ研究指導は、多岐にわたるテーマに対して、各学生の意図を汲んだうえで建設的な意見を述べなければならず、大変有益な経験であった。（b）については、タイ語習得とパンフレットの収集を行い、あわせて、関連する資料をチュラロンコーン大学図書館とTAT図書館で収集した。

④進路への影響

今回の派遣は、SENDの実施とタイ語習得、資料収集に終始し、本格的な現地調査には至らなかった。また、上記の資料の本格的な分析も今後行うことになる。こうした検討を端緒として、タイ国内の各地域に対する観光（者）のまなざしの特徴に迫ることがひとまずの課題である。日本との比較研究のための海外調査は漠然とした憧れでしかなかったが、今回の派遣によって、博士課程修了後にタイ研究に本格参入する決意ができた。こうした機会を与えてくださった KUASU、ならびに滞在費の一部を助成してくださった JASSO にこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。